

放送ストリーミング情報掲載

放送ストリーミング情報【2026No.396】(HP 掲載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ローベルト・シューマン

曲名：交響曲第1番変ロ長調 op. 38 《春》

演奏：ペトル・ポペルカ指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/56383>

2026年1月10日ベルリンフィル大ホールにおける演奏です。



ポペルカがシューマンの《春》でベルリンフィルにデビュー

シューマンが愛と幸福に満ちていた時期に書かれた交響曲第1番《春》は、新婚のクララ・ヴィークとの日々から着想を受け、生き生きとした楽想と希望に満ちたエネルギーにあふれています。対照的に、ベルクのヴァイオリン協奏曲は、若くして亡くなったマノン・グロピウスへの追悼を込めた深い感動を呼ぶ作品。ソリストを務めるのはギル・シャハムです。コンサートの冒頭には、死と罪をテーマにしたドヴォルザークの交響詩《野鳩》が演奏されます。指揮を務めるのは、ベルリンフィル初登場となるペトル・ポペルカです。

上記の他に下記が演奏されました。

アントニン・ドヴォルザーク 交響詩《野鳩》op. 110

アルバン・ベルク ヴァイオリン協奏曲〈ある天使の思い出に〉

ギル・シャハム(ヴァイオリン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ

無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番ロ短調 BWV 1002 より

テンポ・ディ・ボレア

ギル・シャハム(ヴァイオリン)

ドヴォルザーク 交響詩《野鳩》は、どこか牧歌的な風情を思わせる曲です。
ベルクのヴァイオリン協奏曲〈ある天使の思い出に〉は、おどろおどろしいオーケストラの演奏をバックにシャハムの先鋭的で、時としてアグレッシブなヴァイオリンが響きます。

アンコール曲のバッハの無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第 3 番からの演奏は打って変わってしみじみと聴かせます。

シューマンの交響曲第 1 番《春》は、春の息吹のような躍動感とおだやかな陽ざしのような表情が伺えます。複雑な構成の曲ながら、解像度も十分で、緻密な音の構成が聴き取れました。

LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+に送り出し、PC と Brooklyn DAC+の間には USB アキュライザーに交換した結果、シャハムのアグレッシブな演奏としみじみとした演奏の対比が聴き取れ、シューマンの交響曲第 1 番《春》は、躍動感とおだやかな表情の対比が、緻密な音の構成で聴き取れました。

以上